

尾道市消防局管内の概況  
尾道市消防局の沿革

## 尾道市消防局管内の概況



区分	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	人口 (人)
市町村			
尾道市	284.88	64,055	129,314

令和5年4月1日現在

### 地勢

尾道市は、地形的には平地部が少なく、尾道水道の海岸線に沿って帯状に市街地を形成している。交通網は、山陽新幹線及び山陽本線が東西に貫き、国道2号もほぼこれに並走、また、山陽自動車道の尾道インターチェンジ、山陽と山陰を結ぶ幹線道路（中国横断自動車道尾道松江線）、さらには、本州四国連絡橋尾道・今治ルートの西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）の拠点都市である。

尾道市の南部には、平成18年1月10日に合併し尾道市となった因島、生口島及び高根島が位置し、因島の地形は、瀬戸内海の多くの島と同様に急峻で平地に乏しく、標高390mの奥山を最高峰としておおむね100mから300mの山嶺が起伏する中を青影山、奥山などの山系が島を南北に二分している。

生口島及び高根島は、東を因島、北を佐木島、西を大三島、南を伯方島に取り囲まれた瀬戸内海の中央に位置し、地形は、生口島(標高472.3mの観音山)及び高根島(標高310.2mの高根山)のいずれも島の中央部に山脈が縦貫し、南北は分水嶺を形成している急傾斜地であり、その中腹から海岸部にかけて柑橘栽培が行われ、その味と品質は全国的に知られている。

### 気象

管内の気候は、瀬戸内型気候の特徴として温暖であり、中国・四国山脈に遮られた地形から、四季を通じて温和な地域である。

## 尾道市消防局の沿革

西 暦	年 月	概 要
1948年	昭和23年 3月	消防組織法施行に伴い、尾道市消防本部、尾道市消防署を尾道市土堂一丁目に設置。（職員22名配置）
	11月	消防艇「きり」・「たき」購入。（総トン数4.98t）
1949年	24年 2月	尾道市消防署海上出張所を尾道市土堂二丁目中央棧橋に設置、消防艇2隻配置。（職員10名配置）
1950年	25年 1月	尾道市消防団事務を尾道市役所公安保健課から尾道市消防本部へ移管
1951年	26年 2月	尾道市消防署東部出張所を尾道市久保二丁目に設置。（職員10名配置）
	4月	御調郡深田村の内、大字久山田地区が尾道市に合併、久山田町と改称
	11月	水槽付消防ポンプ自動車1台購入
1952年	27年12月	消防艇「きり」使用不能のため11月廃船。12月同「きり」の船体を建造。（神原造船）
1953年	28年 4月	消防ポンプ自動車1台更新
	10月	消防艇「たき」使用不能のため廃船
	11月	小型動力ポンプ1台購入
1954年	29年 3月	御調郡美ノ郷村、木ノ庄村、原田村、尾道市に合併、美ノ郷町、木ノ庄町原田町と改称
	9月	洞爺丸台風により市内の床上・床下浸水家屋6,810戸の被害
1955年	30年 2月	沼隈郡高須村、西村、尾道市に合併、高須町、西藤町と改称
	4月	沼隈郡百島村、尾道市に合併、百島町と改称
	8月	尾道市十四日町に尾道市消防本部、尾道市消防署庁舎第1期工事完成移転
1956年	31年 2月	消防庁舎第2期工事完成
	2月	尾道市消防署東部出張所を廃止、本署に統合
	8月	尾道電話局が完成しダイヤル式となり、火災専用電話119番を導入
	12月	尾道市消防団事務を尾道市総務課へ移管
1957年	32年 1月	沼隈郡浦崎村、尾道市と合併、浦崎町と改称
	10月	消防庁舎第3期工事完成
	11月	消防ポンプ自動車1台購入
	11月	消防用無線電話（周波数2,120 KC 3W 基地局1台、陸上移動局2台）設置
1959年	34年 2月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈。（第1回）
1960年	35年 3月	尾道市危険物安全協会設立
1961年	36年10月	機構改革に伴い尾道市消防団事務を尾道市総務課から尾道市消防本部へ移管
1962年	37年11月	救急自動車1台購入。救急業務開始
1964年	39年 2月	尾道市三軒家町大火
1965年	40年 2月	水槽付消防ポンプ自動車1台購入
	3月	救急自動車2台匿名寄贈
	4月	尾道市消防音楽隊発足。（隊員15名）
1967年	42年 7月	特別機動隊（赤バイ）活動開始
	10月	広報車1台新配置
	11月	尾道市青年会議所から軽四輪積載車1台寄贈
	12月	消防ポンプ自動車1台購入
1968年	43年 3月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈。（第2回）
	10月	千光寺ロープウェイ山頂駅構内に消防用無線基地局設置
1970年	45年 4月	御調郡向東町、尾道市に合併
	12月	消防ポンプ自動車1台購入
	12月	救急自動車1台匿名寄贈
1971年	46年11月	救急自動車（国消型）1台購入
1972年	47年 3月	救命索発射銃一式購入

1973年	9月	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入
	11月	尾道市消防音楽隊解散
	48年 1月	尾道市西則末町 1 2 番 4 0 号に消防庁舎新築着工
	3月	消防艇「きり」使用不能のため廃船
	3月	尾道地区消防組規約尾道市議会において議決
	3月	尾道地区消防組規約向島町議会において議決
	3月	一部事務組合（尾道地区消防組合）設立許可。（県知事）
	4月	尾道地区消防本部、尾道消防署発足。向島分署開設。（職員 1 1 名配置）
	10月	瑠璃ライオンズクラブから救急自動車 1 台寄贈
	12月	新消防庁舎完成。（職員 5 6 名配置）
1974年	49年 12月	尾道消防署元町出張所開設。（職員 1 0 名配置）
	1月	はしご付消防ポンプ自動車購入。（3 0 m級）
	1月	尾道地区消防本部、尾道消防署庁舎開庁式。（消防庁長官出席）
	1月	尾道市土堂二丁目「湯浅内科病院火災」
	2月	尾道市土堂二丁目「4 番街区火災」
	5月	尾道青年会議所から広報査察車寄贈
	7月	職員定数条例改正。（1 0 8 名）
	8月	消防ポンプ自動車 1 台購入。（B D - I 型）
	8月	元町出張所を元町分署に昇格改称。（職員 1 9 名配置）
	8月	尾道消防署向島分署庁舎新築着工。（御調郡向島町 5 4 1 2 番地 2）
1975年	12月	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入。（B 3 級）
	12月	水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入。（II 型）
	50年 3月	尾道消防署向島分署庁舎新築落成開庁式。（職員 1 5 名配置）
	5月	花本株式会社から調査車 1 台寄贈
	7月	救命索発射銃一式購入
	9月	消防用超短波無線電話第 2 基地局設置。（本部庁舎）
	9月	尾道みなとライオンズクラブから指揮車 1 台寄贈
	11月	化学消防ポンプ自動車購入
	1976年 51年 6月	花本株式会社から査察車 1 台寄贈
	9月	三軒家町、西久保町「台風 1 7 号被害」
1977年	10月	尾道市夜間救急診療所開設
	52年 3月	日本自動車工業会から救急自動車 1 台寄贈
	5月	防災器具購入。（発電機 3. 5 k W 2 台、1. 8 k W 2 台、投光器等）
1978年	9月	気象観測器具購入。（指示風向風速計・観測指示温湿度計）
	9月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈。（第 3 回）
	53年 3月	自治体消防発足 3 0 周年記念尾道消防大会を尾道市門田町の消防本部前広場において挙行
	3月	向島ライオンズクラブから救急自動車（国消 2 B 型）1 台寄贈
	3月	尾道消防「3 0 年のあゆみ」発行
	6月	救助用ゴムボート（6 人乗）購入
	8月	消防ポンプ自動車（A 2 級）1 台購入
	8月	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入
	10月	尾道地区消防組合訓練用地取得造成。（取得造成面積 2 7 1. 1 3 m <sup>2</sup> ）
	11月	向島分署庁舎増築工事完成。（会議室増築 4 0. 4 9 5 m <sup>2</sup> ）
1979年	54年 3月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局 1 W）2 台購入
	3月	元町分署庁舎改造工事完成。（第 1 期工事—食堂・浴室・便所）
	6月	久保二丁目大火
	7月	小型動力ポンプ付積載車 1 台購入
	10月	防火委員制度発足
	11月	元町分署庁舎改造工事完成。（第 2 期工事—待機室・仮眠室教養娯楽室等）
	12月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局 1 W 5 台・基地局及び制御機）購入
	1980年 55年 3月	消防庁長官表彰 竿頭綬

1981年	4月	尾道地域救急医療情報センター運営開始	
	7月	尾道ライオンズクラブから救急用担架（T S式9型）2台寄贈	
	8月	尾道ライオンズクラブから救急用人工そ生器（ニューレサシテーター）1台、酸素ボンベ2本寄贈	
	11月	消防広報車1台購入	
	12月	共和工機株式会社から救急自動車購入資金として100万円寄附	
	12月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局10W）3台購入	
	56年 3月	丸和石油株式会社から査察車1台寄贈	
	10月	尾道瑠璃ライオンズクラブからレサシアン（心肺そ生訓練用マネキン）1体寄贈	
	11月	消防ポンプ自動車（BD-I型）1台購入	
	11月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局10W）1台購入	
	11月	水槽付消防ポンプ自動車1台廃車。（9号車）	
1982年	11月	福田幸枝（共和工機株式会社会長）、福田邦利（共和工機株式会社社長）から救急自動車購入資金として100万円寄附	
	11月	救急自動車1台廃車。（2号車）	
	12月	社団法人日本損害保険協会から救急自動車（2B型）1台寄贈	
	12月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局10W）1台購入	
	57年 3月	消防ポンプ自動車（BD-I型）1台購入	
	3月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局10W）1台購入	
	3月	救急自動車（2B型）1台購入	
	3月	百島町婦人消防隊結成	
	7月	栗原少年消防クラブ結成	
	8月	連絡車購入	
	9月	元町分署望楼撤去	
1983年	11月	向島ライオンズクラブから救急自動車（2B型）1台寄贈	
	11月	照明付救助工作車購入	
	12月	尾道ライオンズクラブから映画フィルム1巻、スライド1組寄贈	
	58年 2月	木ノ庄西少年消防クラブ結成	
	3月	花本株式会社から消防施設整備資金として100万円寄附	
	7月	南久保消防隊結成	
	9月	指揮車1台購入	
	10月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台購入	
	11月	消防用超短波無線電話機（陸上移動局10W）2台購入	
	11月	西藤町火災救急着信専用電話開設	
	1984年	59年 2月	尾道市栗原東二丁目「青山病院火災」
3月		査察車1台購入	
8月		日本消防協会から消防用緊急伝達器材（陸上移動局1W）10台寄贈	
11月		尾道ライオンズクラブからレサシベビー1体寄贈	
11月		小型動力ポンプ付積載車1台購入	
1985年		60年 2月	消防ポンプ自動車（BD-I型）1台購入
		2月	消防ポンプ自動車1台廃車。（11号車）
		3月	尾道消防署⇄尾道警察署専用回線電話開設
		11月	水槽付消防ポンプ自動車（I型）1台購入
		11月	日本電信電話株式会社松永電報電話局管内であった尾道市西藤、高須、浦崎、百島の4町の局番が尾道市の行政区域に併せ尾道電報電話局管内に統一編入され異行政区域の消防通報電話解消
		12月	水槽付消防ポンプ自動車1台廃車。（13号車）
	12月	広島県同栄社共済農業共同組合連合会から救急自動車（2B型）1台寄贈	
	1986年	61年 1月	救急自動車1台尾道市立市民病院へ無償譲与。（救急3号車）
		2月	尾道ライオンズクラブから小児用そ生訓練用マネキン1体、移動用映写スクリーン1台寄贈

1987年	62年	3月	消防庁長官表彰旗
		3月	尾道地区消防組合消防訓練場用地取得。(取得造成面積908.11㎡)
		12月	高速ファクシミリ装置導入 PANA FAX UF-1000GX 改造機 (有・無線切換装置内蔵型) 1台
		12月	事務連絡用ファクシミリ導入 NEC-NE FAX-20(電話機内蔵タイプ) 2台
		12月	救急業務用地図等検索装置導入 NEO FILE-2000MP 一式
		12月	パーソナルコンピューター導入 N5200-モデル07 1台
		1月	パーソナルコンピューター運用開始
		3月	救急業務用地図等検索装置運用開始
		3月	屋内訓練場完成。(消防本部1階仮眠室を改造)
		10月	広島県内広域消防相互応援協定書締結。(12市68町6村12消防組合)
1988年	63年	11月	向島ライオンズクラブから結成20周年を記念して救急自動車(2B型) 1台寄贈
		11月	救急自動車(救急6号車) 御調郡向島町へ無償譲与
		11月	火災焼死者防止大会開催～大会宣言採択
		12月	広島ガス株式会社から救急自動車(2B型) 1台寄贈
		12月	救急自動車(救急2号車) 尾道市立市民病院へ無償譲与
		3月	消防救急通信指令システムの整備運用開始
		4月	消防訓練場へ資機材倉庫(鉄骨プレハブ造平家建)設置。(延床面積41.518㎡)
		6月	自治体消防制度発足40周年を記念して防災講演会開催。 (気象災害と防災～気象解説者 宮澤清治氏)
		6月	災害時の通信確保のため衛星通信を利用した衛星経由の119番回線(2回線)を設置
		1989年	平成元年
8月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W) 1台購入		
9月	水槽付消防ポンプ自動車1台廃車。(15号車)		
12月	消防ポンプ自動車(CD-I型) 1台購入		
12月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W) 1台購入		
1月	消防ポンプ自動車1台廃車。(22号車)		
1月	10m級はしご付消防ポンプ自動車1台購入		
1月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W) 1台購入		
2月	防災用無線(アマチュア無線機)一式購入整備		
3月	重量物排除用器具(マット型空気ジャッキ式)購入整備		
1990年	2年	6月	消防情報テレホンサービス電話3回線増設し、計5回線とする
		10月	小型動力ポンプ付積載車1台購入
		10月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W) 1台購入
		11月	第40回全国消防長会警防委員会開催。(尾道国際ホテル於)
		11月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局1W) 4台購入
		11月	資機材搬送車1台廃車
		11月	小型動力ポンプ付積載車1台資機材搬送車に用途変更
		3月	広島県内航空消防応援協定書及び覚書締結。(広島市と県下85市町村)
		8月	水難救助用折り畳み式アルミボート1隻購入。 (船体～富田鉄工所製SSS-14型、主機～ヤマハ682C)
		9月	水難救助用潜水具3組購入
1991年	3年	11月	山波幼年消防クラブ結成
		12月	化学消防ポンプ自動車(I型) 1台購入
		12月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W) 1台購入
		6月	水難救助用潜水具3組購入
		7月	人員搬送車(マイクロバス) 尾道市から無償譲与
		8月	花本株式会社から査察車(軽自動車) 1台寄贈

1992年	8月	尾道市浦崎町における救急業務応援に関する協定書及び覚書締結。 (福山地区消防組合)
	9月	調査広報車 1 台購入
	9月	消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 2 台購入
	9月	防火指導用として、119 番通報訓練装置 (DE-III 型) 1 台購入
	9月	資機材搬送車 (24 号車) 廃車
	10月	化学消防ポンプ自動車 (2 号車) 廃車
	4年 1月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台購入
	1月	救急自動車 (2B 型) 1 台購入
	1月	消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 2 台購入
	1月	救急自動車 (救急 3 号車) 御調郡御調町へ無償譲与
	3月	広島県同栄社共済農業共同組合連合会から救急自動車 (2B 型) 1 台寄贈
	3月	救急自動車 (救急 1 号車) 廃車
	4月	職員定数条例改正。(128 名)
	4月	友愛保育園幼年消防クラブ結成
	7月	救助訓練用人形 1 体購入
	9月	財団法人日本防火協会から尾道地区少年婦人防火委員会へ防火広報車 (い すずファーク) 1 台寄贈
	9月	救助袋 (垂直式) 1 基購入
	9月	消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 1W) 2 台購入
	10月	救助訓練用安全マット (HB 型、二つ折式) 3 枚購入
	1993年	11月
11月		向島ライオンズクラブから救急自動車 (2B 型) 1 台寄贈
11月		第 1 回消防フェア消防本部庁舎において開催
5年 1月		広報車 (18 号車) 廃車
1月		指揮車 1 台を調査広報車に名称変更
2月		消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台購入
2月		指揮車 (8 号車～トヨタビスタ) 1 台購入
2月		消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 3 台購入
2月		向島町みどりの園幼年消防クラブ結成
3月		消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 1 台購入
3月		査察車 (10 号車) 廃車
4月		御調郡御調町が新たに加入し、1 市 2 町により構成。ただし、御調町にお ける常備消防活動は、平成 5 年 10 月 1 日から実施。(広島県知事許可)
4月		職員定数条例改正。(148 名)
4月		御調郡御調町大字大田 26 番地 1 へ尾道消防署御調分署 (仮称) 着工
9月		小型動力ポンプ付積載車 (4WD) 1 台購入
9月		調査広報車 (リベロカーゴ) 1 台購入
9月		消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 1W) 7 台購入
9月		消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 4 台購入
10月		尾道消防署御調分署庁舎新築落成開庁式。(職員 20 名配置)
10月		尾道消防署北分署庁舎新築落成開庁式。(職員 18 名配置)
10月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 2 台購入。(うち 1 台は 4WD)	
11月	消防用超短波無線電話機 (陸上移動局 10W) 2 台購入	
11月	救急自動車 (2B 型) 1 台購入	
11月	御調郡向島町の高見山に消防用無線中継局設置	
11月	無線統制台購入整備	
1994年	12月	消防ポンプ自動車 (BD-I 型) 3 台廃車
	6年 2月	救助訓練用安全マット (HB 型、二つ折式) 2 枚購入
	3月	安田生命保険相互会社から救急自動車 (2B 型) 1 台寄贈
	4月	救急自動車 (救急 7 号車) 尾道造船株式会社尾道造船所へ無償譲与
	5月	救助訓練用マット (HB 型、二つ折式) 1 枚購入

1995年	7月	猛暑少雨による尾道地区消防本部渇水対策本部設置。(7月18日～9月8日)
	8月	8月11日発生竹原市の林野火災に対し、延べ4日間、14隊、73名の応援出動。(焼失面積378ヘクタール)
	8月	8月17日発生因島市の林野火災に対し、延べ4日間、3隊、20名の応援出動。(焼失面積57ヘクタール)
	9月	9月6日因島市の林野火災の消防応援に対する因島市長感謝状
	9月	9月27日竹原市の林野火災の消防応援に対する竹原市長感謝状
	10月	大型油圧式救助器具一式購入
	12月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W)2台購入
	12月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局1W)3台購入
	12月	大型救助器具等搬送車1台購入
	12月	御調町めぐみ保育園幼年消防クラブ結成
	12月	御調町立西保育所幼年消防クラブ結成
	12月	御調町立北保育所幼年消防クラブ結成
	12月	御調町立中央保育所幼年消防クラブ結成
	7年 1月	1月17日午前5時46分ごろ発生阪神・淡路大震災への消防応援隊派遣 神戸市消防局須磨消防署へ1月17日から1月25日まで5隊25名派遣し、消防・救助活動を実施
1996年	2月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台購入
	2月	消防用超短波無線電話機(陸上移動局10W)1台購入
	2月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台廃車
	2月	資機材運搬車1台廃車
	3月	阪神・淡路大震災への余震対策に伴う消防応援隊派遣 神戸市消防局須磨消防署へ3月12日から3月15日まで1隊5名派遣し消防・救助活動を実施
	5月	1月17日午前5時46分ごろ発生阪神・淡路大震災への消防応援に対する消防庁長官感謝状
	12月	救急自動車1台廃車
	12月	高規格救急自動車1台購入
	12月	35mはしご付消防自動車1台購入
	8年 1月	30mはしご付消防ポンプ自動車1台廃車
	2月	連絡車(普通乗用車)1台購入
	5月	尾道消防(自治体消防)発足50周年記念事業実行委員会設置
	10月	尾道地区消防本部消防職員委員会設置
	10月	査察車1台購入
1997年	11月	化学防護服4着購入
	9年 1月	全国波無線設備を高見山に設置
	2月	9項目対応救急自動車1台購入
	3月	査察車1台廃車
	3月	連絡車(軽自動車)購入
	4月	職員定数条例改正。(149名)
	4月	尾道消防音楽隊再編結成。(隊員28名)
	8月	花本功氏から消防施設整備資金として100万円寄附
	11月	向島ライオンズクラブから調査広報車1台寄贈
	10年 1月	高規格救急自動車1台購入
1998年	5月	救急自動車(救急7号車)1台廃車
	10月	美ノ郷町本郷「台風10号被害」
	11月	尾道消防(自治体消防)発足50周年記念式典を尾道市公会堂において挙
	11月	消防年報(尾道消防発足50周年記念号)発刊
	12月	松永道路に関する覚書及び実施細目締結。(福山地区消防組合)
	11年 2月	救助工作車II型1台購入
1999年		



2000年	3月	照明付救助工作車 1 台廃車
	4月	島しょ部における船舶の使用に関する業務協定書締結
	4月	西瀬戸自動車道消防相互応援協定書締結。 (因島市瀬戸田町消防組合・越智郡島部消防事務組合・今治地区事務組合)
	4月	西瀬戸自動車道における消防及び救急・救助業務に関する覚書締結。 (因島市瀬戸田町消防組合・越智郡島部消防事務組合・今治地区事務組合・ 本州四国連絡橋公団第三建設局)
	12年 1月	水槽付消防ポンプ自動車 (I-A) 1 台購入
	3月	消防緊急通信指令施設 (II 型) 整備運用開始
	4月	職員定数条例改正。(153名)
	7月	尾道消防署元町分署新庁舎業務開始
	7月	高規格救急自動車 1 台購入
	8月	救急自動車 (救急 6 号車) 日本パラオ協会へ無償譲与
	10月	人員搬送車 1 台購入
	12月	人員搬送車 1 台廃車
2001年	13年 1月	9 項目対応救急自動車 1 台購入
	3月	救急自動車 (救急 5 号車) 日本消防協会へ無償譲与
	3月	職員派遣の取扱いに関する協定書。(因島市瀬戸田町消防組合)
	4月	職員定数条例改正。(155名)
	9月	調査広報車 1 台更新
2002年	11月	高規格救急自動車 1 台更新
	14年 4月	職員定数条例改正。(156名)
	8月	査察車 1 台更新
2003年	12月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台更新
	15年 4月	職員定数条例改正。(158名)
2004年	16年 2月	2 月 1 4 日発生 of 豊田郡瀬戸田町の林野火災に対し、延べ 4 日間、118 名の応援出動。(焼損面積 390.99ヘクタール)
2005年	6月	尾道市東尾道 1 8 番 2 に尾道市消防防災センター新築着工
	8月	尾道市新浜一丁目 5 番 3 号に尾道消防署西分署庁舎 (仮称) 新築着工
	10月	尾道地区消防組合へ因島市瀬戸田町消防組合が統合。(広島県知事許可)
	12月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台更新
	17年 4月	職員定数条例改正。(230名)
	10月	尾道消防防災センター (尾道地区消防組合消防本部・尾道消防署・尾道市 防災センター) 新庁舎完成移転
2006年	10月	尾道消防署元町分署を尾道消防署西分署に改称
	10月	尾道消防署西分署新庁舎完成移転
	18年 1月	尾道地区消防組合解散 (構成市町の合併) 尾道市消防局設置
	1月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台更新
	4月	職員定数条例改正。(253名)
2007年	11月	小型動力ポンプ付積載車 1 台更新
	12月	20m はしご付消防自動車 1 台購入
2008年	19年 1月	10m はしご付消防ポンプ自動車 (西はしご車) 広島県消防学校へ無償譲与
2009年	20年 1月	消防ポンプ自動車 (CD-I 型) 1 台更新
	3月	尾道消防 (自治体消防) 発足 60 周年
	4月	尾道消防署西分署を尾道西消防署に格上げ
	11月	高規格救急自動車 1 台購入
	12月	小型動力ポンプ付積載車 1 台更新
2009年	21年 3月	救急患者搬送船「のぞみ」購入 (総トン数 10t)
	7月	救急患者搬送船「ももしま」を尾道市健康推進課から移管 (総トン数 10t)
	7月	救急患者搬送船「のぞみ」運用開始
	7月	救急患者搬送船「ももしま」運用開始

2010年	10月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台更新
	10月	高規格救急自動車1台購入
	11月	高規格救急自動車1台購入
	11月	救急自動車（2B型）1台廃車
	22年 2月	高規格救急自動車1台更新
2011年	3月	救急自動車（2B型）1台廃車
	5月	統合型位置情報通知システム導入
	23年 3月	東日本大震災に伴う緊急消防援助隊派遣 宮城県名取市へ3月12日から4月9日まで10隊81名派遣し消防・救助活動を実施
2012年	8月	調査広報車1台廃車 指揮車1台購入
	10月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台廃車
	11月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台更新
	24年 1月	救急自動車（2B型）1台廃車
	4月	職員定数条例改正。（221名）
2013年	11月	高規格救急自動車1台更新
	12月	指揮統制車1台購入
	12月	救助工作車II型1台更新
	25年10月	調査広報車1台更新
	10月	資機材搬送車1台購入
2014年	10月	救助工作車I型1台廃車
	11月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台更新
	26年 4月	尾道市・三原市消防指令センター運用開始
	7月	調査広報車1台更新
2015年	11月	高規格救急自動車1台更新
	27年 1月	指揮車1台廃車
	4月	職員定数条例改正。（209名）
	7月	高規格救急自動車1台更新
2016年	11月	調査広報車1台更新
	12月	水槽付消防ポンプ自動車（I-A）1台更新
	28年 3月	救急自動車（2B型）1台廃車
	3月	調査広報車・防火広報車2台廃車
	3月	消防ポンプ自動車（CD-I型）1台廃車
	3月	化学消防ポンプ自動車（I型）1台廃車
	4月	因島消防署新庁舎完成移転（因島消防署因北出張所を統合）
	4月	消防救急デジタル無線システム運用開始
	10月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台更新
	11月	高規格救急自動車1台配備
2017年	11月	調査広報車1台配備
	29年 1月	高規格救急自動車1台廃車
	3月	査察車1台廃車
	4月	因島消防署瀬戸田分署新庁舎完成移転
	4月	尾道消防署北分署を尾道消防署北出張所に改称
	7月	九州北部豪雨災害に伴う緊急消防援助隊派遣
2018年	11月	査察車1台更新
	12月	水槽付消防ポンプ自動車（I-A）1台更新
	30年 2月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台廃車
	3月	尾道消防（自治体消防）発足70周年
	4月	尾道消防署向島分署新庁舎完成移転
	7月	調査広報車1台廃車
10月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台更新	

	10月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台廃車
	12月	救急患者搬送船「ももしま」廃船
	12月	救急患者搬送船「しまなみ」運用開始
2019年	31年 2月	調査広報車1台更新
2019年	令和元年11月	高規格救急自動車2台更新
2020年	2年 3月	消防庁長官表彰（竿頭綬）尾道市消防団と共同受章
	3月	高規格救急自動車1台更新
	3月	高規格救急自動車1台廃車
	12月	調査広報車1台更新
2021年	3年 1月	調査広報車1台廃車
	3月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台更新
	3月	消防ポンプ自動車（CD-1型）1台廃車
	3月	水槽付消防ポンプ自動車（1-A型）1台廃車
	12月	3.8m級はしご付消防自動車1台更新
2023年	5年 1月	水槽付消防ポンプ自動車（1-A型）1台更新
	2月	高規格救急自動車1台更新
	2月	資機材搬送車1台更新
	2月	資機材搬送車1台廃車
	3月	高規格救急車1台廃車